令和7年度

第3回　淵野辺小学校 学校運営協議会（はやぶさネットワーク）

日時　令和7年11月12日（水）10時00分～12時
会場　淵野辺小学校2階　会議室

司会：副校長
記録：　教務

＜参加者＞

学校運営協議会　委員
- 飯島　沙織（にこにこ星ふちのべ商店会　役員）
- 鈴木　俊之（青山学院大学コミュニティ人間科学部　准教授）
- 前田　高志（麻布大学　教務部長　高大接続・社会連携プログラム開発センター長）
- 芹野　浩三（桜美林大学　PFC事務室　室長）
- 淺倉　勲（淵野辺小学校　校長）

地域学校協働活動推進員
- 福原　信広（サレジオ工業高等専門学校　事務局長）

オブザーバー
- 水下　こずえ（PTA副会長）

教育委員会
- 藤原　啓（学校教育課　指導主事）

事務局
- 清水　綾（淵野辺小学校　副校長）
- 田中　真理（淵野辺小学校　副校長）
- 江口　しのぶ（淵野辺小学校　教務主任）

1.開会の言葉（副校長）
・「ナチュラルビズ」について
・感染症が流行っているので、健康に留意して過ごしている。健康に気を付けながら、地域の活動も進めていきたい。

2.学校長あいさつ
（資料：学校だより）
- ・キャリア教育について
- ・校内研究について
- ・運動会について
- ・工事の進捗状況について

3.教育委員会あいさつ（学校教育課指導主事）
- ・他校に淵野辺小学校の取り組みを紹介したところ、地域の方と子供たちの強み弱みを話し合った学校もあった。他校の参考になっている。
- ・相模原市の現状としては、子供が減っている。そのような中で、どのような学びを作っていくかが今後求められる。

（副会長の選出）飯島委員

4.協議（進行：事務局）
（1）今年度前半の様子、地域と連携した活動の実際
基本方針１　・朝の読書タイム　・校内研修を通した授業力向上　・授業改善
基本方針２　・運動会の取り組み
基本方針３　・児童支援体制　・ほっとルーム
基本方針４　・体育の学習　・工事により取り組めないものもある
基本方針５　・カリキュラム・マネジメント

コミュニティ・スクールの取り組み
学校が助けてほしいこと伸ばしたいことを、地域の方と一緒に活動することができている。
【本校の重点】
①入学後の１年生、校外学習の安全確保や学びの充実
②登校支援
③工事中の休み時間の過ごし方
④地域との交流や、生活・総合などの学びの充実

学力状況調査・学びの調査の結果報告

（2）授業参観　３校時（１０：４０～１１：２５）

４年１組	総合的な学習の時間	指導者	中島　美穂教諭
６年２組	総合的な学習の時間	指導者	北川　恵李教諭
		ゲストティーチャー	福原さん　飯島さん

（3）授業参観の様子、感想等
（4）「地域や大学と連携した学びの充実をめざして」

【飯島委員】
・自分たちのやったことが財産となるように、子供たちの思いを実現してあげたい。
・子供たちのアイデアは無限だと感じた。

【福原推進員】
・子供たちの思いを実現するために、先生たちもどのように進めていけばよいか悩んでいたので、商店街の方をゲストティーチャーとしてクラスに招待し、子供たちが考えていることをプレゼンする授業を提案した。それが、今回の６年２組の授業である。
・２月の商店街のイベントと一緒にお祭りができたらよいと考えている。
・子供たちには「やってよかった」「うまくいところもあったから、次の活動にいかしたい」と思ってもらいたい。
・お祭りの参加は小学生からの発信ということを地域に伝えるため、今後予定している商店街のイベントにも参加してもらい、イベントの開催方法などを学んでほしい。

【鈴木委員】
・6年生は、タブレットPCの使い方も慣れているしプレゼンも意欲的にやっていた。質疑応答もしっかりできていた。総合の学習で目指す資質・能力が身に付いていることを感じた。
・4年生は、高齢者のことをよく学んで体操や歌を考えており、遊びも工夫されていた。福祉を通じて学びが広がっている。

【前田委員】
・小学生が行っていた課題解決型の学習は、大学でも行っている。答えのない問題に直面したとき、今ある学びをツールとして解決していく力を付けることが必要になる。
・淵野辺は恵まれた地域である。学習で取り組んだことが結果としてすぐには表れなくても、やってきたプロセスを大切にしていくことで、自分で答えを導き出す力を養うことができる。
・麻布大学には食品・環境の学部がある。大学祭で学生が考案した中華まんを3種類作って販売した。淵野辺小学校の5年生が大学祭を訪れ、中華まんを作る過程を見学していった。大学生にとってもよい刺激になったので、大学側も「小学生と取り組む地域活性」という視点で研究をしてもおもしろいのではないか。
・淵野辺小の支援級が動物管理センターの堆肥づくりを見学をした。引き続き活動を続けていけたらよいと思う。

【芹野委員】
・タブレットPCを1人1台使用していて、今の学校教育はそれが当たり前だということを実感した。
・淵野辺の地域には商店街と大学があり、地元のことを学ぶ大切さを感じることができるめぐまれた環境である。
・桜美林大学の学校祭でも小学生と交流した。

【水下PTA副会長】
・子供たちは、商店街の人が来てプレゼンできることを楽しみにしていた。
・学校の中に地域の方が馴染んでいると思う。
・青山大学のアメフト部の人たちは保護者にも気持ちのよいあいさつをしてくれる。
・引き続き、PTAでもサポートしていきたい。

【藤原指導主事】
・4年生の体操は座っている人もできるので、高齢者のことをよく考えて作られていると感じた。
・6年生が大学生になったとき、自分たちでイベントをしたり、淵野辺小の子と何かやったりできたらよい。小さい頃の成功体験は今後の活動の大きな一歩につながると思う。

（5）その他

5. 閉会の言葉（副校長）

＊次回の協議会
・第4回（最終） 2月10日（火）14:00～16:00
学校経営・運営の評価、協議会のまとめ、次年度に向けて